

第10回相模原市行財政構造改革本部会議 会議録

日時 令和2年4月9日(木)午後3時00分～

会場 第1特別会議室

出席者 市長、下仲副市長、隠田副市長、森副市長、教育長、市長公室長、市長公室理事、
総務局長、財政局長、危機管理局长、市民局長、健康福祉局長、こども・若者未来
局長、環境経済局長、都市建設局長、緑区長、中央区長、南区長、議会局長、
教育局長、消防局長

開会のあいさつ

1 これまでの取組状況等について

本部会議構成員に異動があり、また市長公室長が加わったことから、議題について事務局より「資料1」～「資料4」に基づき概要を説明。

2 (仮称)相模原市行財政構造改革プラン(案)のイメージについて

事務局より、議題について「資料5」に基づき説明。

- ・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を理由に策定作業を中断してしまうと、策定の目途が立たなくなることから、本改革プランの策定はこのまま進め、大きな環境の変化等が生じた場合については、時点更新により対応していく。
- ・ 扶助費や民生費については、新型コロナウイルス感染症に係る対応で多忙な状況の中、恐縮ではあるが、各局等と改めて調整させていただきたい。

<主な質疑等>

中間素案として提示された内容のうち、現時点で議論の余地があるものとならないものの区分がわからない。

多くの項目で議論が進んでいるが、新たな大規模施設の整備やまちづくり事業に係る計画等の策定の凍結などについては、今後さらに議論が必要である。

現在提示されている案では、計画期間の8年間で収支均衡を図ることを前提としているが、3か年程度の財政収支を見ながらローリングを図るような考え方の方が良いと思う。

本改革プランの冒頭で、本市の財政が現在のような状況になった経過を市民に説明することが必要なのではないかと。

人件費削減の必要性は理解できるが、それによって委託費等の新たな支出が必要となることも考慮する必要がある。また、過度な定数削減は、職員の疲弊を招き、業務の効率を下げることにも繋がりがかねないので、慎重な判断が必要。

「本市が特に重点的に力を入れる分野」等が掲げられているが、どのような経過でこ

これらの分野等が選ばれたのか。もっと深く議論する必要があるのではないか。

そうした点についても、引き続き、本部会議でご議論いただきたい。

3 今後の進め方について

事務局より、3月31日に発表された改革プランの策定期間の延期について、「資料6」により説明。

4 その他

- 事務局より、資料に基づき、職員意見募集を踏まえて作成した市長メッセージ動画について説明した。

以 上